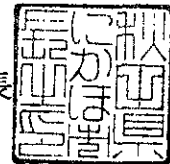


企 収 — 526

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

にかほ市長 横 山 忠 長



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記については、
別紙のとおり回答する。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

秋田県 にかほ市

市はこれまでも、国と県に対して国道7号のう回路や渋滞解消策を要望してきましたが、30数年来この課題は解消されず、最後の頼みの綱が日本海沿岸東北自動車道（日沿道）の開通でありました。その日沿道が昨年9月ようやく当市の入り口まで一部が供用開始され、日常的な仁賀保・本荘間の渋滞は、高速道路と国道7号に分散され随分解消されたところであります。開通後1ヶ月後の調査によれば、国道7号（由利本荘市西目町沼田付近）全体で13,800台、うち上り6,900台、下り6,900台で日沿道（面前寺交差点～本荘IC）全体で9,300台、うち上り4,500台、下り4,800台でありました。このことから概ね均等に分散され、交通渋滞が緩和されたことが明らかであり、沿線住民ともども大変喜んでいただいております。加えて昨年地域企業の核となるTDK㈱は、由利本荘市内に新工場を建設し、増産体制に入りました。この地に工場を増築する理由の一つに、高速道路が近いことをあげております。このことから高速道路の持つ威力を実感しているところであります。

当市の場合、県境はもちろん隣市の由利本荘市に行くにも国道7号が唯一の幹線道路であり、物流や通勤等の交通が集中している上、う回路もなく、交通事故などで一度その機能が麻痺すれば、市全域に与える影響は甚大であります。また、市内には救急病院がなく、救急患者の大多数を隣の由利本荘市の病院まで搬送していますが、冬場は道路が凍結し、高度医療施設への救急搬送は通常の倍の時間を費やします。救命率の向上や後遺症の軽減等のためには、一分でも早く到着することが重要であります。昨年の日沿道の一部開通で、由利本荘市方面へは、搬送時間の短縮、道路の凹凸や交差点の停止などによる傷病者への負担が大きく軽減されました。引き続き、県境部分を含め、更なる整備促進を切望しています。

地方はいま、人口の減少や少子高齢化社会の進展、そして厳しい財政状況の中で生き残りをかけて、様々な取り組みを展開しています。観光による交流人口の拡大や企業誘致をするにも高速道路のネットワーク化をはじめとする道路整備は、地方の活性化を支え、また、地方の発展があつてこそ、活力のある日本の未来につながるものであり、電車やバスなど公共機関が乏しく、自動車に依存せざるを得ない地方にとっては、高速交通網の整備をはじめ、道路整備やそのネットワークはまだ不足していると言わざるを得ません。住民生活の安全・安心なまちづくりと交流人口の拡大や、地方における事業の活性化に道路整備は必要不可欠でありますので、その重要性を深く認識していただきたい。

以上のことから、特に次のことを強く要望するものです。

1.高速自動車道路の早期ネットワーク化の実現

- ①中期計画の点検評価における費用対便益分析(B/C)の算定の際には、地方の実情に即した便益になるようにしていただきたい。
- ②高速道路整備については、計画から工事着手までの期間、或いは完成までの工事期間を短縮させることで、地域開発の進展が目に見える形で実感されるようになり、企業誘致や産業活性化等、地域全体の底上げを推進する追い風になっていく。

2.交流人口の拡大を支える道路整備

※仙台圏域や新潟県を含む東北各地に情報発信するため、各旅行会社に対し、着地滞在型観光を目指して誘客活動を展開していますが、会社側からは遠く感じられ、交通機関が不便で企画商品化しにくい等を指摘されている。当市の観光振興には、日本海沿岸自動車及び幹線道路整備促進が不可欠である。また、インターチェンジから市街地へは近いことが理想ですが、誘導する案内看板等の整備も重要なポイントと考える。

3.災害、救急時に対応できる道路環境の構築

※地方では医師不足により救急医療や、産科、小児科等の医療機関が極端に減少している。このため数十キロ離れた近隣への受診、搬送が余儀なくされており、高速道路及び一般道路の整備は不可欠である。しかし、定期的に受診を要する場合、有料の高速道路は低所得者、年金生活者等にとって大きな出費となるため、無料の高規格道路等の整備をしてほしい。

4.沿道の景観や街並み、高齢化社会に配慮した道路整備

※電柱の地中化や小公園（高齢者などが小休止できる程度）などを配慮した歩道の整備とバリアフリー化の促進。

5.積雪寒冷地に対応した道路と歩道の整備

※雪国にとって冬期間の足の確保は、重要な課題である。住民はもちろん高齢者や障害者が冬場でも普段と変わらない日常生活ができることは大切である。雪のため、外出の機会が減り、家に閉じこもりとなり、交流がない生活は、日常生活動作の低下や認知症等を招くことにも繋がります。住民の健康を守り高齢者の介護予防支援のためにも、雪国の冬期間の除雪対策等のため十分な予算を確保してほしい。

6.市道の維持修繕に対する財政支援の強化

※高速道路、国道が整備されてもそれらと交わる市道が不備では、道路としての機能が充分満たされない。このことから、地方道路整備臨時交付金制度は、高度医療施設や観光施設へのアクセス改善、道路の防災・安全性の向上、増大する道路ストックの補修や更新などに大きく貢献していることから、引き続き制度を存続させていただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

にかほ市の平成17年度における工業出荷額は県下第1位であり、TDK株式会社を中心に企業集積も進んでいる。これから更なる発展が期待されるところであるが、高速道路をはじめとする道路整備の遅れが大きな障害となっており、製造業関係者からは受発注を左右する要素でもあることから、早期整備が強く望まれています。

国の採択基準に該当しない道路を救済する措置を…

当市には、数多くの市道があり、国からの補助を受けるには、ある程度の規模(幅員や延長)がないと採択にならない。本当に生活に密着した幅員の狭い道路や延長が短い道路整備は、市単独で整備しなければならない状況となっている。このことから、市単独では、厳しい財政状況下では、なかなか整備が進まない状況となっています。

市道の維持について

地方の厳しい財政状況では、国から受ける道路特定財源だけでは、現在ある市道を計画的に維持補修が出来ない状況にある。また、特に地域柄、冬場は雪も多く、除雪や排雪の費用もかさむことから、市の財政を圧迫しています。

○課題

道路特定財源が一般財源化された場合、地方への整備費が十分に配分されるのか懸念されます。

国の道路整備事業の採択基準の緩和が図られるかが課題であります。

道路特定財源が一般財源化された場合、市道の道路維持等について、これまでのような財政支援が受けられるのか、懸念されます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

1.広域的な交流基盤となる日本海沿岸東北自動車道の整備や一般国道7号等の維持修繕に努めるよう関係機関に要望します。

①日本海沿岸東北自動車道が全線開通すると…

- ・他地域、他企業との競争力が向上します。
- ・企業の集積が進み、地域の活性化が図られます。
- ・物流コストが軽減できます。
- ・輸送における信頼・安全性が飛躍的に図られます。



工業出荷額の飛躍的増加が見込めます！

増加予想額 約1,000億円

②競争力ある製造業を定着させ安定した地域の発展を図るために、自動車産業への参入が大きなテーマの一つになっている。東北が自動車の生産拠点として各地域の特色を高めながら有機的な連携の構築を目指しており、この連携を深めるためには、岩手、山形、宮城をはじめとする東北各県や県内各地域と当地を結ぶ、高規格な道路整備が不可欠であります。

2.豊かな自然や史跡などを活用した観光振興を支援する道路整備を推進する。

現在、主要県道象潟矢島線の中島台レクリエーション～矢島が未整備の状況です。この区間は鳥海山麓と日本海を連結する路線で、新たな観光ルート(新緑、紅葉、山と海)として活用できるものと思っております。また、桜ヶ丘団地～岩本踏切区間も狭隘の状況で、交通事故対策や大型バスなどの交通を考慮して、山間部と一体的に整備が望まれます。(観光振興として山麓と市街地の路線を望む)

3.市民生活に密着した幹線道路や歩道の整備・改良、道路案内標識の整備を図るとともに、冬期間の生活路線を確保するため、除雪・防雪対策の充実が必要不可欠であります。

4.交通弱者の利便性向上のために、既存の生活バス路線の維持を図るとともに、新たな地域公共交通機関を推進する必要があります。

5.日本海沿岸東北自動車道等の整備は、秋田港を経由してロシア及び北東アジアとの貿易を促進する環日本海シーアンドレール構想における物流支援を補完し、沿岸市町村の地域活性化が図られます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
道路特定財源の維持	地域要望に迅速に対応したインフラ整備	国民にとって一番身近な道路の補修等の維持管理は、まさに地域生活に密着したインフラ整備である。市道の側溝改修や、雨水処理、オーバーレイ等、一つ一つを見れば小さな工事ですが、日々利用している地域住民から見れば、安全・安心に直結する道路整備であります。にかほ市における改善等要望は、年間250件ほどありますが、財政的にも厳しい中、要望に即応して実施できるのは10～20%程度の件数である。道路特定財源が一般化された場合、これらの補修等すら出来なくなってしまうことが懸念されますので、道路特定財源の安定的な確保は死守すべきものと考えます。こういった小さな整備の積み上げが、まちづくり・国づくりの活性化の底上げに真に寄与するものと確信しています。	
	にかほ市幹線道路「象潟・平沢線(仮称)」整備	一般財源化になった場合、現在進められている日沿道象潟仁賀保間や山形県との県境までの道路整備計画や、合併により一体感の醸成のために、当市で計画している幹線道路「象潟・平沢線(仮称)」の整備がどうなるのか、非常に懸念されます。また、除雪や橋の修繕など、道路維持に多大な影響を与えることは確かと思われます。道路ができれば地方が必ずしも活性化するわけではないが、道路は人と暮らしを支える最も基礎的なインフラ整備であり、地域の経済・産業の発展、医療、災害時における輸送など、安全で安心なまちづくりを推進するためには、その整備は重要であり、そのためにも道路特定財源を安定的に確保することが必要であると考えます。	
日本海沿岸東北自動車道の全線開通	山形・秋田県境の早期工事着工	にかほ市北側の入口(両前寺)まで開通した日沿道は、今後県境に位置する象潟ICまでは計画的に整備が進められるようだが、それ以降は未定となっている。秋田県の南の玄関口として位置している当市としては、日沿道は我が国の中央へ通じる大動脈として位置づけていることから、県境部分の工事着工を待ち望んでいるところです。開通後は、交流人口の増加や地場産業の物流促進、さらには企業誘致の促進など、地域への貢献は計り知れないものと確信しております。また、国道7号との併用により、救急・災害等に迅速かつ的確に対応できることから安全・安心なまちづくり、霊峰烏海山を核とし、県境を越えた地域連携や観光振興に大きく貢献するものです。	

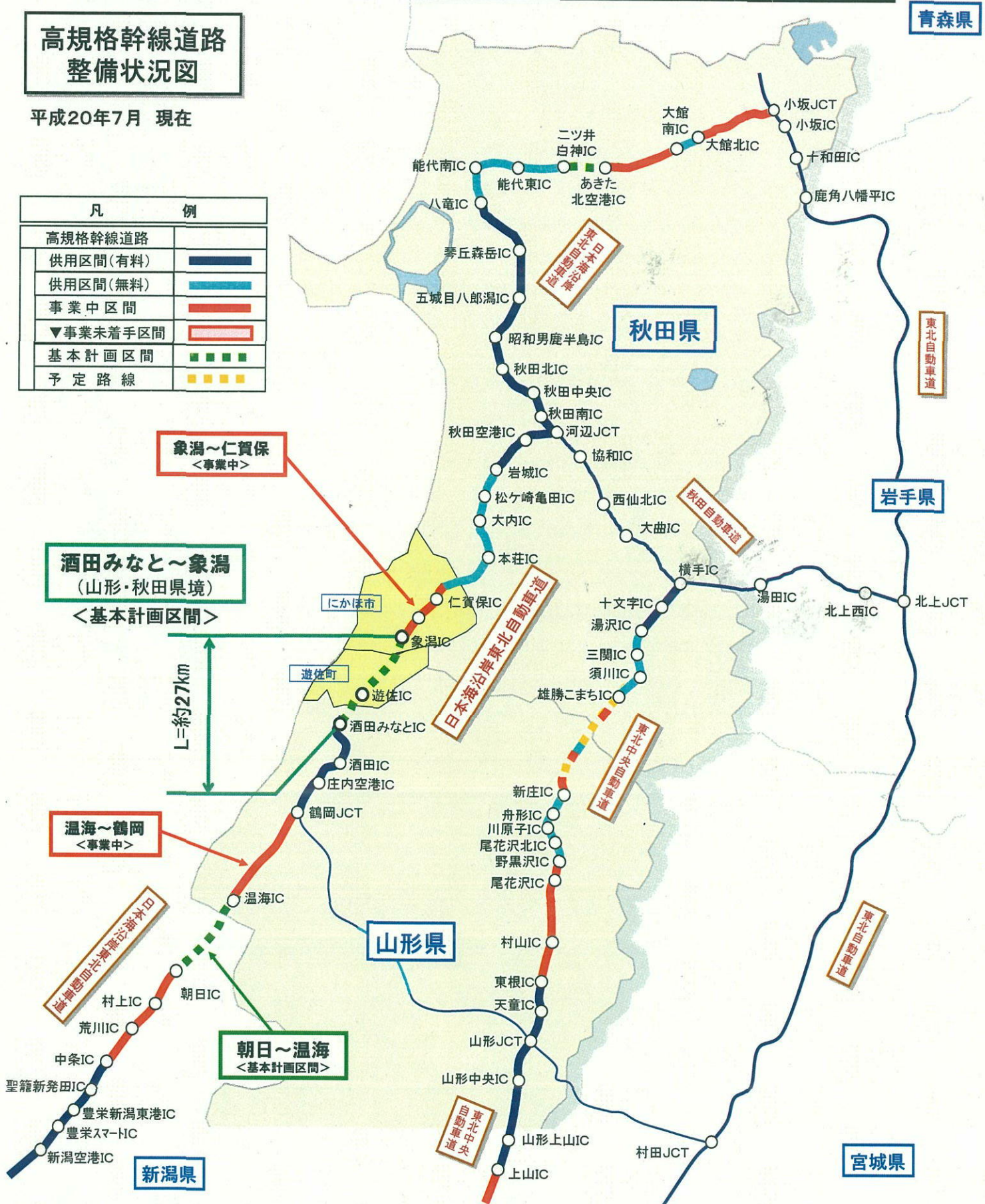
日本海沿岸東北自動車道

「山形・秋田県境及び全線の**早期整備**を**熱望**します！」

高規格幹線道路 整備状況図

平成20年7月 現在

凡	例
高規格幹線道路	
供用区間(有料)	■
供用区間(無料)	■
事業中区間	■
▼事業未着手区間	■
基本計画区間	■
予定路線	■

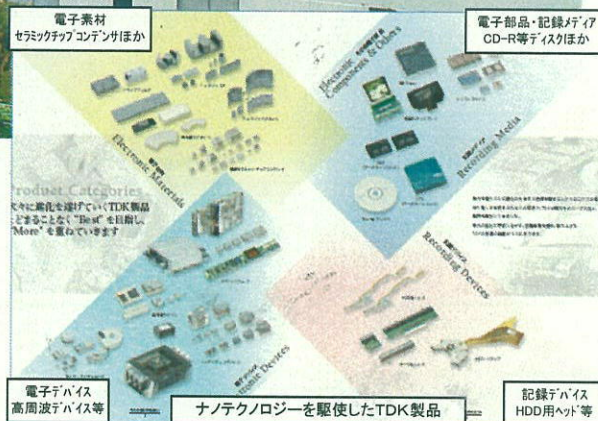


『にかほ』から世界へ…

—工業と田園のまち「にかほ」—



市内に直轄工場が数多く立地している中核企業「TDK(株)」



●にかほ市の工業出荷額

(単位:億円)

年 度	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
出荷額	2,191	2,334	2,334	3,683
県内順位	第2位	第2位	第2位	第1位



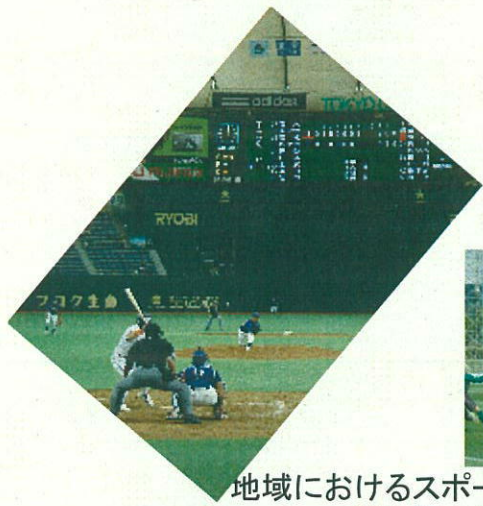
●日本海沿岸東北自動車道が開通すると…

- ①他地域、他企業との競争力が向上します。
- ②企業の集積が進み、地域の活性化が図られます。
- ③物流コストが軽減できます。
- ④輸送における信頼・安全性が図られます。



●工業出荷額の飛躍的増加が見込めます。

増加予想額約1,000億円



地域におけるスポーツ文化の向上に、リーダー的役割を担っています！
(平成18年度都市対抗野球全国制覇、JFL参戦など)

●鮮度が命！

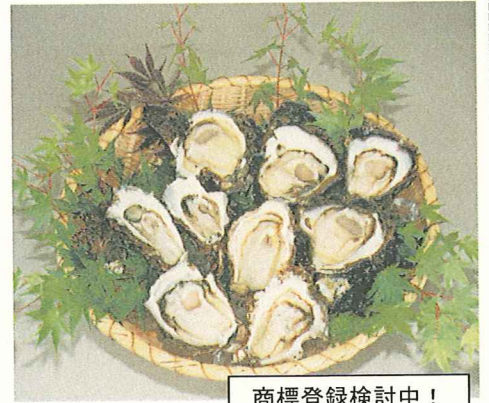
今が旬(7、8月限定)の天然岩ガキ。
冬の日本海で水揚げされるハタハタ、タラ…。
四季おりおりの味覚を新鮮なままに食卓へ！



日本海沿岸東北自動車道で新鮮なうちに首都圏・関西圏へ

にかほー新潟間	～4時間	→ 3時間。	1時間短縮
にかほー仙台間	～4時間	→ 3時間。	1時間短縮
にかほー東京間	～8時間	→ 6時間。	2時間短縮
にかほー大阪間	～13時間	→ 10時間。	3時間短縮

出荷先が輸送時間短縮により、首都圏中心から関西圏まで販路が拡大します！



商標登録検討中！
「象潟の天然岩ガキ」

●天然岩ガキの水揚量

	漁獲量(kg)	漁獲高(千円)
平成17年度	125,950	86,891
平成18年度	155,440	101,013

大勢の人で賑わう『きさかた「港」海の幸まつり』

『きさかた「港」海の幸まつり』が今年(H20.7.26)も開催され、道の駅「象潟」特設会場は大勢の人で賑わった。地元漁業者らでつくる実行委員会(後藤一雄委員長)の主催で今年で12回目の開催。

地元の海で捕れた天然岩ガキやアワビ、ホタテ、ホッケ、甘エビ、ツブ貝などを提供した。目玉の天然岩ガキ4,500個は炭火焼き、カキご飯、生食用として販売された。

炭火焼きコーナーは一時人垣ができるほどの盛況ぶりを見せた。



採れたて天然岩ガキをその場でバーベキュー

●市内の観光



道の駅象潟「ねむの丘」



国指定天然記念物「象潟(九十九島)」



古刹「蛸満寺」
松尾芭蕉像



国の名勝「奈曾の白滝」



日本の夕陽百選
「象潟海岸の夕陽」

日沿道が全線開通すると…

にかほ市を中心とした滞在型観光圏域の確立！
にかほから角館、男鹿半島まで周遊圏の拡大！
山と海のふるさと体験参加型観光に弾み！

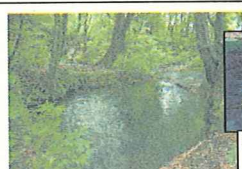
相乗効果で観光客も増加！



平成の名水百選
「元滝 伏流水」



風が見える仁賀保高原
「風車群」



平成の名水百選
「獅子ヶ鼻湿原 出壺」



希少コケの群生体
「鳥海マリモ」

※観光客入込み数(H19実績)

秋田県	4,515.1万人
にかほ市	203.7万人



東北第二の高山
「鳥海山」

国道7号（日沿道並行予定区間）の状況

国道7号の山形・秋田県境部は、付近に広域的な迂回路が無いことから、ひとたび事故や災害が発生し通行止めになったりした場合、交通不能となり地域住民の生活に大きな影響が出ます。物流などの輸送においても同じです。

早期に日本海沿岸東北自動車道が整備されることを強く要望します。

■雨による路面冠水により通行規制が度々発生
（山形県遊佐町菅里字十里塚地内）



■交通事故発生状況（山形県遊佐町菅里地内）



■観光シーズンには行楽客で大渋滞（休日、夏期）

▼山形県遊佐町内（吹浦バイパス 鳥海大橋）



緊急迂回ルート図



▼秋田県にかほ市内

